

平成24年度

事業報告

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

《 目 次 》

I 国際障がい者スポーツ総合大会への選手及び役員の派遣

1 ロンドン 2012 パラリンピック競技大会	1
2 第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会	1
3 パラリンピックワールドカップ 2012	1
4 ソチ 2014 パラリンピック冬季競技大会事前現地調査派遣	2

II 競技力向上対策の推進

1 競技団体に対する助成	2
2 海外コーチ招聘事業	2
3 競技別指導者養成事業	2
4 ジャパンパラ競技大会の開催	3
5 競技別大会	4
6 アンチ・ドーピング活動の推進	5
7 医・科学サポート推進事業(旧科学支援推進事業)の実施	5

III 障がい者スポーツの普及

1 第 12 回全国障害者スポーツ大会	5
2 競技別大会	6
3 障害者スポーツ指導者の育成	6
4 地域における障がい者スポーツの振興事業	7
5 障がい者スポーツの広報	7

IV 事業活動推進のための体制強化

1 長期ビジョンの策定	7
2 国庫補助と助成団体助成金の確保	7
3 オフィシャルスポンサー制度の推進	8
4 寄附活動の推進	8
5 国際組織との連絡調整	8
6 独立行政法人国際協力機構への協力	8
7 文部科学省及び日本体育協会との連携強化	9
8 東日本大震災への支援	9
9 関係機関との会議開催等	9

V 東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致活動の実施

11

I 国際障がい者スポーツ総合大会への選手及び役員の派遣

本年度の国際障がい者スポーツ総合大会関連の選手及び役員の派遣は以下の通りである。

1 ロンドン 2012 パラリンピック競技大会

開催期間：平成 24 年 8 月 29 日(水)～9 月 9 日(日)

派遣期間：平成 24 年 8 月 22 日(水)～9 月 12 日(水)

開催地：イギリス・ロンドン

運営主体：国際パラリンピック委員会(IPC)

ロンドン 2012 オリンピック・パラリンピック組織委員会(LOCOG)

参加国・地域：約 164 か国・地域

参加人数：約 6,740 人(選手 4,310 人 役員 2,430 人)

実施競技：アーチェリー、陸上競技、ボッチャ、自転車、馬術、5 人制サッカー、7 人制

(20 競技) サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、セーリング、

射撃、水泳、卓球、シットイングバレーボール、車椅子バスケットボール、

車いすフェンシング、ウィルチェアーラグビー、車いすテニス

※日本は下線の 17 競技に参加

日本代表選手団概要

参加人数：選手 134 名 役員 121 名 計 255 名

団 長：中森 邦男

(公益財団法人日本障害者スポーツ協会日本パラリンピック委員会事務局長)

副 団 長：野口 美一

(公益財団法人日本障害者スポーツ協会理事)

(日本車椅子バスケットボール連盟会長)

主 将：土田 和歌子(陸上競技)

旗 手：木村 敬一(水泳)

成 績：金メダル 5 個、銀メダル 5 個、銅メダル 6 個 計 16 個

2 第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会 (派遣主体：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会)

開催期間：平成 24 年 5 月 26 日(土)～6 月 2 日(土)

派遣期間：平成 24 年 5 月 24 日(木)～6 月 3 日(日)

開催地：大韓民国・ソウル市

運営主体：アジア太平洋ろう者スポーツ連合

2012 ソウルアジア太平洋ろう者競技大会組織委員会

参加国・地域：15 か国・地域

実施競技：陸上競技、バドミントン、硬式野球(オープン)、バスケットボール男子、ボウリング、

(15 競技) 自転車、サッカー男子、フットサル男子、柔道、水泳、テコンドー、卓球、テニス、

バレーボール、レスリング

※日本は下線の 12 競技に参加

日本選手団：選手 123 名 役員 73 名 計 196 名

成 績：金メダル 28 個、銀メダル 25 個、銅メダル 17 個 計 70 個

3 パラリンピックワールドカップ 2012

開催期間：平成 24 年 5 月 22 日(火)～5 月 26 日(土)

開催地：イギリス・マンチェスター

実施競技：陸上競技、7 人制サッカー、車椅子バスケットボール(男子)、ボッチャ

(4 競技) ※日本は主催者招待により下線の 2 競技に出場した。

日本からの参加者：21名（選手15名、役員6名）

成績：陸上競技 銅メダル1個

車椅子バスケットボール（男子） 4位（4/4）

4 ソチ2014パラリンピック冬季競技大会事前現地調査派遣

（1）第1回現地調査

派遣期間：平成25年3月13日（水）～18日（月）

場所：ロシア・モスクワ及びソチ

内容：現地日本国大使館との情報交換、大会会場等関係施設視察等

（2）ソチパラリンピック団長セミナー

派遣期間：平成25年3月18日（月）～26日（火）

開催場所：ロシア・ソチ

内容：大会組織委員会による準備状況報告、部門別説明、大会会場視察等

II 競技力向上対策の推進

1 競技団体に対する助成

（1）助成金配分方針

競技団体への配分は、パラリンピック等の競技実績等による基礎配分と、重点強化指定競技への特別配分にて助成。今年度の重点配分はロンドンパラリンピック、デフリンピックの実施競技について助成。

（2）補助対象団体

日本パラリンピック委員会加盟の以下の競技団体とした。

1) 肢体不自由、視覚障がい関連競技団体（31団体）

2) 聴覚障がい関連競技団体関係（20団体）

3) 知的障がい関連競技団体（7団体）

（3）助成金を用いて実施できる対象事業

1) 強化合宿

競技団体の強化指定選手を対象として、国内外で実施する強化合宿。

2) 国際競技会へのチーム派遣

JPCが派遣する総合競技大会を除く、各競技の世界選手権、ワールドカップ、地域選手権、国際オープン大会等、競技団体が独自に日本チームを編成、派遣する国際競技会。

3) 強化会議の開催

競技団体の強化活動計画の検討や実施状況報告等の為に、競技団体が実施する強化委員会等の会議の開催。

4) その他の強化活動に必要な事業

2 海外コーチ招聘事業

パラリンピック等においてメダルを多く獲得した国から、海外コーチ・役員を招聘し、選手強化や最新の海外動向等に関する指導を受け、日本選手の総合的な国際競技力向上につなげた。

実施競技団体：日本ブラインドサッカー協会、日本障害者スキー連盟（アルペン身体）、日本障害者スキー連盟（クロスカントリー身体）

3 競技別指導者養成事業

本会が制定する「公認障害者スポーツ指導者制度」に基づく障害者スポーツコーチ、障害者スポーツ医、障害者スポーツトレーナー講習会の他、各競技における指導者の養成及び資質向上のため

めの支援等を行う。

(1) 国際資格取得講習会への派遣助成

(2) JPC 加盟競技団体が開催する指導者養成講習会・研修会への助成

(3) JPC 選手強化の為に医科学サポート研修会の開催

期 間 平成 25 年 2 月 16 日(土)～2 月 17 日(日)

場 所 国立スポーツ科学センター

参加者 34 名

内 容 ロンドンパラリンピック参加競技の医科学サポート事例発表、JPC の今後の強化・医科学支援の展開について等の講義、参加者情報交換会等。

4 ジャパンパラ競技大会の開催

・パラリンピックや世界選手権大会を目指すトップレベルの選手のために、引き続き国際組織のクラス分け、国際組織の競技規則を適用したレベルの高い競技大会を開催した。

・開始当初の開催目的が達成されたと思われる競技もあり、JPC および各競技団体の強化方針に合わせるなど、引き続き検討委員会による見直し等を行う事としている。

・平成 24 年度は次の 5 競技を実施した。

(1) 2012 ジャパンパラ陸上競技大会

開催期間 平成 24 年 6 月 2 日(土)～3 日(日)

開催場所 長居陸上競技場(長居スタジアム) 大阪市東住吉区

参加人数 296 名(男子 218 名・女子 78 名) ※エントリー数

特記事項 ・国際パラリンピック委員会(IPC)公認大会として実施した。

・日本新記録 29、日本タイ記録 1、大会新記録 53、大会タイ記録 2 が樹立された。

・インターネットによる動画配信、スタートリスト/速報配信、ツイッターによる情報配信を実施した。

・45 社 128 名(放送媒体:17 社、紙・web 媒体:28 社)のメディアが取材に訪れた。

(2) 2012 ジャパンパラ水泳競技大会

開催期間 平成 24 年 7 月 15 日(日)～16 日(月・祝)

開催場所 大阪府立門真スポーツセンター(なみはやドーム) 大阪府門真市

参加人数 221 名(男子 151 名・女子 70 名) ※エントリー数

特記事項 ・国際パラリンピック委員会(IPC)公認大会として実施した。

・世界新記録 1、大会新記録 56、が樹立された。

・インターネットによる動画配信、スタートリスト/速報配信、ツイッターによる情報配信を実施した。

・26 社より 149 名(2 日間のべ、放送媒体:6 社、紙・web 媒体:20 社)のメディアが取材に訪れた。

(3) 2012 ジャパンパラアーチェリー競技大会

開催期間 平成 24 年 10 月 6 日(土)～7 日(日)

開催場所 埼玉県障害者交流センター さいたま市浦和区

参加人数 40 名(男子 33 名・女子 7 名)

特記事項 ・オリンピックラウンド方式にて実施、1 日目個人戦予算ラウンド、2 日目個人戦決勝トーナメント。

・インターネットによる動画配信、スタートリスト/速報配信、ツイッターによる情報配信を実施した。

・2 社より 8 名(2 日間のべ、放送媒体:1 社、紙・web 媒体:1 社)のメディアが取材に訪れた。

(4) 2013 ジャパンパラクロスカントリースキー競技大会

開催期間 平成 25 年 2 月 8 日(金)～10 日(日)

開催場所 白馬クロスカントリー競技場(スノーハープ) 長野県白馬村

参加人数 31 名(男子 27 名・女子 4 名)

特記事項 ・1998 年長野オリンピック・パラリンピック会場だった長野県白馬村スノーハープで行われた。

・14 社より 66 名(3 日間のべ、放送媒体:5 社、紙・web 媒体:9 社)のメディアが取材に訪れた。

(5) 2013 ジャパンパラアルペンスキー競技大会

開催期間 平成 25 年 3 月 21 日(木)～24 日(日)

開催場所 白馬八方尾根スキー場 長野県白馬村

参加人数 48 名(男子 38 名・女子 10 名)

特記事項 ・国際パラリンピック委員会(IPC)公認大会として実施した。

・15 社よりのべ 84 名(4 日間)のメディアが取材に訪れた。

5 競技別大会

競技団体との共催により競技力向上のために次の大会を実施した。

(1) 内閣総理大臣杯争奪第 40 回日本車椅子バスケットボール選手権大会

開催期間 平成 24 年 5 月 2 日(水)～4 日(金・祝)

開催場所 東京体育館 東京都渋谷区

参加チーム数 20 チーム(全国 10 ブロック)

最終結果 優勝:宮城MAX 準優勝:NO EXCUSE 3 位:千葉ホークス

特記事項 天皇皇后両陛下のご臨席を賜った。(決勝戦)

(2) 厚生労働大臣杯争奪第 25 回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会

開催期間 平成 24 年 6 月 2 日(土)～3 日(日)

開催場所 パークアリーナ小牧 愛知県小牧市

参加チーム数 14 チーム

最終結果 優勝:神奈川ジャンクス 準優勝:Horsetail 3 位:KINGS ・ キャロッツ

(3) 厚生労働大臣杯争奪第 41 回全国身体障害者アーチェリー選手権大会

開催期間 平成 24 年 8 月 5 日(日)

開催場所 埼玉県障害者交流センター さいたま市浦和区

参加人数 37 名(男子 32 名 女子 5 名)

(4) IPC公認第 32 回大分国際車いすマラソン大会

開催期間 平成 24 年 10 月 28 日(日)

開催場所 大分市内(国際陸上競技連盟／日本陸上競技連盟公認コース)

参加人数 総数 286 名(国内 229 名・海外 15 カ国 57 名)

最終結果 フルマラソン 男子 1 位 マルセル・フグ(スイス)

女子 1 位 土田和歌子

(5) 2012 日本障害者自転車競技大会(ロード大会・トラック大会)

【ロード大会】

開催期間 平成 24 年 10 月 28 日(日)

開催場所 万場調整池 愛知県豊橋市

参加人数 14 名(内パイロット 2 名)

【トラック大会】

開催期間 平成 24 年 11 月 17 日(土)

開催場所 日本サイクルスポーツセンター(伊豆ベロドローム)

参加人数 8 名(内パイロット 1 名)

(6) 第 23 回全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会

開催期間 平成 24 年 11 月 10 日(土)～11 日(日)

開催場所 グリーンアリーナ神戸 神戸市須磨区

参加チーム数 7 チーム

最終結果 優勝:カクテル 準優勝:SCRATCH 3 位:Brilliant Cats

6 アンチ・ドーピング活動の推進

(1) アンチ・ドーピング教育・研修事業 24 事業を実施した。

(2) ドーピング検査事業 14 の大会で検査を実施した。

7 医・科学サポート推進事業(旧科学支援推進事業)の実施

各競技の日本代表選手の競技力強化の為に、医科学面の支援及び体制構築を行った。

(1) JPC・競技団体・サポートスタッフのネットワーク構築

(2) 対象選手の測定分析 (体力測定、医学的管理、栄養調査、心理調査、動作解析)

(3) 強化活動への医科学的支援 (心理サポート、栄養指導、映像技術支援、トレーナー支援)

(4) データベース:上記に関する選手データ等の一元管理及び応用活用

Ⅲ 障がい者スポーツの普及

1 第 12 回全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)

(1)本大会(財団法人 JKA 補助事業)

会 期 平成 24 年 10 月 13 日(土)～15 日(月)

開閉会式会場 岐阜メモリアルセンター長良川競技場

愛 称 ぎふ清流大会

大会スローガン 輝け はばたけ だれもが主役

参 加 者 数 5,431 名(選手 3,165 名・役員 2,266 名)

(2)地区予選会(一部財団法人 JKA 補助事業)

会 期 平成 24 年 4 月～6 月

内 容 ブロックごとに身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の団体競技について予選を行った。

	団体競技名	北海道・東北	関東	北信越・東海	近畿	中国・四国	九州	開催県
身体	車椅子バスケットボール	仙台市	東京都	愛知県	神戸市	高知県	沖縄県	岐阜県
	グラントソフトボール	仙台市	山梨県	三重県	大阪市	徳島県	鹿児島県	岐阜県
	バレーボール(男子)	青森県	東京都	愛知県	大阪市	広島市	福岡市	岐阜県
	バレーボール(女子)		神奈川県	静岡県	兵庫県	広島市	沖縄県	岐阜県
知的	バスケットボール(男子)	秋田県	横浜市	愛知県	大阪市	高知県	福岡県	岐阜県
	バスケットボール(女子)	秋田県	東京都	長野県	堺市	岡山県	沖縄県	岐阜県
	ソフトボール	宮城県	東京都	福井県	京都市	岡山県	長崎県	岐阜県
	フットベースボール	岩手県	東京都	静岡県	神戸市	山口県	熊本県	岐阜県
	バレーボール(男子)	宮城県	東京都	新潟市	兵庫県	山口県	北九州市	岐阜県
	バレーボール(女子)	宮城県	東京都	新潟市	兵庫県	山口県	福岡県	岐阜県
	サッカー	札幌市	東京都	静岡県	大阪府	広島市	長崎県	岐阜県
精神	バレーボール	青森県	横浜市	浜松市	京都市	高知県	佐賀県	岐阜県

2 競技別大会

競技団体との共催により障がい者スポーツ普及のために次の大会を実施した。

(1) 第 22 回かすみがうらマラソン兼第 18 回国際盲人マラソン霞ヶ浦大会

開催期間 平成 24 年 4 月 15 日(日)

開催場所 川口運動公園をスタート・ゴールとする湖岸周回コース(日本陸連公認コース)

参加人数 盲人ランナー145 名 (フルマラソン 70 名・10 マイル 50 名・5 km 25 名)

(2) 第 24 回全国車いす駅伝競走大会

開催期間 平成 25 年 2 月 17 日(日)

開催場所 国立京都国際会館前→西京極総合運動公園陸上競技場

参加チーム数 28 チーム

最終結果 優勝 福岡チーム 45 分 30 秒 (以下 2 位 大分A 3 位 京都A)

(3) 厚生労働大臣杯争奪第 42 回全国身体障害者スキー大会

開催期間 平成 25 年 2 月 21 日(木)～23 日(土)

開催場所 秋田県 仙北市たざわ湖スキー場

参加人数 44 名(女子 12 名・男子 32 名)

最終結果 団体戦(厚生労働大臣杯) 第1位 秋田県 第2位 神奈川県 第3位 群馬県

3 障害者スポーツ指導者の育成

(1) 障害者スポーツ指導者養成事業

1) 初級および中級障害者スポーツ指導員養成講習会の認定(協会以外開催)

都道府県・指定都市、各県障害者スポーツ協会、その他関係機関が実施する初級および中級障害者スポーツ指導員養成講習会の認定を行った。

① 初級障害者スポーツ指導員養成講習会

都道府県・政令指定都市主催講習会 60 回

その他の団体主催講習会 2 回

② 中級障害者スポーツ指導員養成講習会

都道府県主催講習会 4 回

日本体育協会資格保持者対象講習会 2 回

理学療法士資格保持者対象講習会 1 回

2) 障害者スポーツ指導員等各種講習会の開催(協会主催)

① 中級スポーツ指導員養成講習会(1) 受講者 33 名

② 中級スポーツ指導員養成講習会(2) 受講者 26 名

③ 中級スポーツ指導員養成講習会(3)日本体育協会指導者対象 受講者 37 名

④ 上級スポーツ指導員養成講習会 受講者 31 名

⑤ 障害者スポーツコーチ養成講習会 受講者 8 名

⑥ 障害者スポーツトレーナー養成講習会 受講者 1 次 23 名 2 次 27 名

⑦ 障害者スポーツ医養成講習会 受講者 35 名

(2) 資質向上のための研修事業

障害者スポーツ指導者の資質向上のために次の研修会を実施した。

1) 全国障害者スポーツ大会障害区分判定研修会 参加者 59 名

2) ステップアップ研修会(1) 参加者 81 名

3) ステップアップ研修会(2) 参加者 36 名

4) 資格取得認定校研修会 参加者 37 校 44 名

5) 第 8 回障害者スポーツ指導者全国研修会 参加者 235 名

(3) 障害者スポーツ指導員資格取得認定校

学校教育法に基づく大学・短期大学および専門課程を置く専修学校のうち、当協会が特に認

めた学校を障害者スポーツ指導員資格取得認定校とした。

- 1) 初級資格取得認定校 148 校(大学 56 校、短期大学 17 校、専門学校 75 校)
- 2) 中級資格取得認定校 22 校

4 地域における障がい者スポーツの振興事業

- (1) 都道府県・政令指定都市障害者スポーツ協会と連携し、当協会公認の障害者スポーツ指導員を活用し、地域の特性を考慮したスポーツ指導等のモデル事業を実施した。

- 1) 第 1 回会議

日 時：平成 24 年 7 月 5 日(木) 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：中央区 久松町区民館

- 2) 第 2 回会議

日 時：平成 25 年 2 月 25 日(月) 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：中央区総合スポーツセンター

- (2) 平成 24 年度は下記の 3 事業を実施した。

- 1) 福岡県内における障がい者スポーツ地域振興事業
- 2) 埼玉県ふれあい地域振興事業
- 3) 秋田県内における障がい者スポーツ地域振興事業

5 障がい者スポーツの広報

本年は、パラリンピックの開催年、また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致の重要な年であり、下記により積極的な情報発信・提供を行い、障がい者スポーツの普及促進に努めた。

- (1) ホームページによる情報発信

障がい者スポーツの普及・啓発に関する情報をはじめ、当協会主催事業の案内・報告、国際大会派遣に関する情報提供、動画配信による理解促進などを積極的に行った。

- (2) マスメディアへの情報提供

協会主催事業の情報配信、本協会に著作権のある映像・写真の貸し出し、要望に応じた各種資料の提供、取材先の紹介等の情報提供を行い、報道機会の拡大に努めた。

- (3) ポスター、広報冊子・映像等、普及・啓発素材を作成・配布

障がい者スポーツ並びにパラリンピック競技の理解促進を行った。

- 1) ロンドン 2012 パラリンピック広報
- 2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致
- 3) その他

IV 事業活動推進のための体制強化

1 長期ビジョンの策定

本年は、障がい者スポーツにとって大きな転機を迎えた重要な年であった。

しかしながら、障がいのある人にとって、スポーツを行うこと、スポーツを見ることで受ける影響は健常者以上に大きいにもかかわらず、その価値や社会的認知度は低く、現状、障がい者スポーツの振興体制は十分に整っているとは言い難い。

本協会は、現在から未来に向け、スポーツの普及拡大と競技力の向上を柱とした日本の障がい者スポーツのビジョンを策定した。ビジョン実現のための計画的・具体的な方策を、明確な目的意識と長期的展望のもと、アクションプランとして策定し、PDCA(Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検・評価)、Act(改善))サイクルを徹底していくこととした。

2 国庫補助と助成団体(福祉医療機構・日本スポーツ振興センター・JKA)助成金の確保

事業実施に必要な体制整備のためには財政基盤の安定が不可欠である。国及び民間助成団体

に対し、障がい者スポーツの現況に理解を求め、必要な財源確保に努めた。

(1) 国庫補助事業

(2) 社会福祉振興助成金(独立行政法人福祉医療機構) 14 事業を実施した。

(3) スポーツ振興助成金(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

1) スポーツ振興基金助成 16 事業を実施した。

2) スポーツ振興くじ助成 7 事業を実施した。

3 オフィシャルスポンサー制度の推進

平成 23 年度に変更した協賛制度をもとに引き続き協賛企業の獲得に努めるとともに、現行の協賛企業との連帯を強め、障がい者スポーツ支援者の拡大に努めた。

JPC協賛企業 カテゴリー別企業数の推移

協 賛 カ テ ゴ リ ー	協賛基準額(税別)	平成 24 年	平成 25 年
JPC オフィシャルパートナー	1,000 万円	6	7
JPC オフィシャルサポーター	100 万円	16	15
協 賛 合 計	協賛社数	22	22
	協賛額(約)	5,400 万円	6,200 万円
備考		3 月 31 日	3 月 31 日

※協賛合計は、複数年契約の企業であっても1年当たりの協賛額に基づき算出している。

※すべての企業が 4 月 1 日付の契約ではないため、決算書記載額とは異なる場合がある。

※協賛金の全部または一部をサービス・商品の提供に代えている企業もある。

4 寄附活動の推進

従来からの寄附の継続を依頼するほか、昨年に引き続きパラリンピックメダル受賞者に対する報奨金及び選手の育成強化のための寄附活動を行った。

5 国際組織との連絡調整

国際パラリンピック委員会をはじめとする国際組織に加盟し、連絡・調整を図るため、本年度は次の国際会議に参加した。

(1) ロンドンパラリンピック事前登録会議

日 程 : 平成 24 年 5 月 22 日(火)~26 日(土)

場 所 : イギリス・ロンドン

(2) KPC 女性スポーツワークショップ(講師として大久保技術委員長が参加)

日 程 : 平成 24 年 11 月 16 日(金)~18 日(日)

場 所 : 韓国・イチョン

(3) CPISRA 総会

日 程 : 平成 24 年 12 月 11 日(火)~17 日(月)

場 所 : 南アフリカ共和国・プレトリア

6 独立行政法人国際協力機構への協力(JICA 研修員受入事業)

アジアの開発途上国から 6 名の研修員を受け入れ、障がい者スポーツリーダー育成の研修事業を行った。

期 間 : 平成 24 年 9 月 20 日(木)~10 月 31 日(水)

研修員 : 6 名 フィジー(2 名)、ラオス、ミャンマー、フィリピン、サモア

内 容 : 講義、実技、大会見学、施設見学

7 文部科学省及び日本体育協会との連携強化

- (1) 生涯スポーツ体力づくり全国会議 2013(宮崎県)の共催
- (2) 生涯スポーツ推進委員会(日本体育協会主催)への参画
- (3) 全国スポーツ指導者連絡会議(日本体育協会主催)への参加

8 東日本大震災への支援

ロンドンオリンピック・パラリンピック日本代表選手団への東北の人々の応援と支援に対し感謝を伝えるため、公益財団法人日本オリンピック委員会等との共催によるイベント“東日本大震災復興支援JOC「がんばれ！ニッポン！」プロジェクト ロンドンオリンピック・パラリンピック応援ありがとう in 東北”を開催した。

開催地：岩手県、宮城県、福島県

期 日：平成 24 年 12 月 2 日(日)、3 日(月)

主催者：公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障害者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、特定非営利活動法人日本オリンピック協会

後 援：岩手県、宮城県、福島県、宮城県教育委員会、仙台市

協 力：特定非営利活動法人東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会 他

参加者：ロンドンオリンピック・パラリンピック日本代表選手団 50 名

(うちロンドンパラリンピック日本代表選手 13 名)

内 容：岩手・宮城・福島各県の被災地訪問

パレード(仙台市宮城野通り、観覧者数:48,000 名)

ふれあいイベント(ゼビオアリーナ仙台、入場者数:1,502 名)

9 関係機関との会議開催等

- (1) 障害者スポーツ競技団体協議会兼日本パラリンピック委員会加盟競技団体会議

日 時：平成 25 年 3 月 5 日(火) 12 時～15 時 30 分

場 所：ホテル日航東京 1 階 オリオン

- (2) 障害者スポーツ協会協議会、障害者スポーツ指導者協議会

日 時：平成 25 年 3 月 6 日(水) 12 時～15 時 30 分

場 所：ホテル日航東京 1 階 ペガサス

- (3) 障がい者スポーツ info 2013

(障がい者スポーツ振興事業として新たに実施)

日 時：平成 25 年 3 月 7 日(木) 10 時～12 時 45 分

場 所：ホテル日航東京 1 階 オリオン

- (4) 専門委員会(技術委員会・医学委員会・科学委員会)の開催

1) 技術委員会

【第 1 回】

日 時：平成 24 年 7 月 20 日(金) 14 時～17 時

場 所：日本橋公会堂 東京都中央区

審議事項

- ① 第 12 回全国障害者スポーツ大会視察者について
- ② 平成 24 年度障害区分判定研修会報告及び今後について
- ③ 平成 25 年度全国障害者スポーツ大会規則集解説への障害区分解説について
- ④ 開催基準要綱、参加資格緩和措置規定について(対象となる事業所の範囲)

【第 2 回】

日 時：平成 24 年 11 月 26 日(月) 13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：中央区総合スポーツセンター 第 3 会議室

議 事

- ① 第 12 回全国障害者スポーツ大会報告概要
- ② 全国障害者スポーツ大会競技規則改正案
 - ア) 平成 25 年度改正案
 - イ) 平成 26 年度以降の検討内容
- ③ 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2013 について
- ④ 講習会・研修会の実施状況
- ⑤ 平成 24 年度地域振興モデル事業の進捗状況
- ⑥ 平成 24 年度精神障害者スポーツ活動実態調査委員会経過報告

2) 医学委員会

日 時 : 平成 24 年 4 月 7 日(土) 13 時 00 分～16 時 30 分

場 所 : 東京シティ・エアターミナル T-CAT ホール 4・5 号室

議 題

- ① 平成 24 年度事業計画
- ② ロンドンパラリンピック概要とメディカルサポートについて
- ③ 競技団体の健康管理について
- ④ JPC が派遣する総合大会日本選手団医療班について

3) 科学委員会

日 時 : 平成 24 年 4 月 28 日(土)13 時 30 分～16 時 30 分

場 所 : 人形町区民館 1 号室(洋室)

審議事項

- ① 科学委員会のビジョン(組織・役割分掌)とミッションについて
- ② 2012(平成 24)年度の活動予定
 - ア) ロンドン 2012 パラリンピック競技大会
 - イ) JPC 医・科学・情報サポート推進事業について
 - ウ) JPC 強化研修会(仮称:障害者スポーツセミナーの後継事業)について
 - エ) 講習会・研修会開催予定
- ③ 平成 25 年度科学研究費の申請について(文科省・厚労省)
 - ア) 文科科研:パラリンピック選手への科学サポート など
 - イ) 厚労科研:身体障がいの実態調査からみた障がい者スポーツの課題 など

(5) 2015 年創立 50 周年記念事業の検討

【幹部検討会】

日 時 : 平成 24 年 9 月 28 日(金) 16 時～17 時

議 題 : 創立 50 周年記念事業の骨子(案)について

主な方針

- ① 記念誌の作成とその内容は、口絵(写真で見る 50 年)・特集・本誌(50 年の主な変遷)とし、年表・資料等はDVDとする。
- ② 記念式典及び記念イベントの実施。
- ③ 準備室の設置。(平成 25 年 4 月 1 日)

(6) 表彰等

1) ロンドン 2012 パラリンピック競技大会特別賞贈呈式

日 時 : 平成 24 年 12 月 11 日(火) 14 時 40 分～15 時 30 分

場 所 : ホテル日航東京 オリオン

【受賞内容】 17 名のメダリストにパラリンピック特別賞を贈呈した。

2) 会長表彰等(特別功労章、功労章、特別賞)

特別功労章 3 名

功労章 23 名 2 団体

特別賞 13 名

(7) 障害者スポーツ指導者協議会

1) 運営委員会

第 1 回:平成 24 年 5 月 14 日(月)	中央区堀留町区民館
第 2 回:平成 24 年 11 月 18 日(日)	中央区堀留町区民館
第 3 回:平成 25 年 2 月 10 日(日)	福岡国際会議場

2) 研修部会

第 1 回:平成 24 年 5 月 17 日(木)	中央区久松町区民館
第 2 回:平成 24 年 11 月 22 日(木)	札幌市身体障害者福祉センター
第 3 回:平成 25 年 2 月 9 日(水)	福岡国際会議場

3) 情報部会

第 1 回:平成 24 年 8 月 20 日(月)	中央区日本橋人形町区民館
第 2 回:平成 24 年 12 月 17 日(月)	中央区日本橋人形町区民館

V 東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致活動の実施

日本で 2 回目の夏季パラリンピック開催を目指し、招致活動を積極的に推進した。また、障がい者スポーツ競技団体、都道府県・指定都市スポーツ協会・スポーツ指導者協議会等、関係団体と協働し、その実現に向けての活動を展開した。

1 IPC 本部訪問

日 程 : 平成 24 年 7 月 17 日(火)~21 日(土)

場 所 : ドイツ・ボン

内 容 : IPC スポーツ(4 競技)の会場承認を得、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのパラリンピック構想についての説明を行った。

2 IOC 本部・IPC 本部への立候補ファイル提出及び海外記者発表

日 程 : 平成 25 年 1 月 6 日(日)~11 日(金)

場 所 : スイス・ローザンヌ、ドイツ・ボン、イギリス・ロンドン

内 容 : 招致アンバサダーの鈴木孝幸選手(水泳)を、立候補ファイル提出代表団の一員として派遣。